俳諧一茶集

後編

911.308
ハ
後前 2

俳諧一葉集　清息之部

古夢庵佛子
幻窓　湖中　編
坎窩　久蔵　校

一ハ秋法くそ和歌ひ切さ切き物を点ら行ゆ山ちう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月十四日

東京を発す

生徒一同

○

桐園雑文

小吉雅文

[illegible]

○

道命法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

怪盗文

○

[illegible]

女角棒

○

[illegible]

社の[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

舞楽を見るとかみらは羽おり

これら特一さいまたうの名ゆう人のはんえいけいこく

そもそも

○

一をう芸能の御あるを合金を二分ゆうて拝付をひ

るを人西国下りはされと為るのをうてえをうまをうを

そもそも

○

当代ゆう人附句ゆうはは仲芸人をうを手に能作をを

書くをを手をは仕体の最初伝をの内云をのをいををを

定の句趣ひをををいをををを東武ゆひをめしをのを掛

を附句

森のをこのをを千ををををの色を

をいつをおを

雪のおを花は鶯色ををみをを

二月上伝

木因様

千色書

毒蛾あを人成人の付句を文をを書を伝を更を伝し俳句作

俳を手相考を貴を下俳を毒をの及をを他句下句を古代を

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

飲酒一枚起請

[illegible]

右飲酒一枚起請文[illegible]

[illegible]

十七

廿角丈

○

[illegible]

一[illegible]の句

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

正月三日　芭蕉

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一所今度に成人おそ女ゝ[illegible]中度に

[illegible]月一日　[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

く[illegible]

一同[illegible]

一[illegible]

一[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

四月廿四日　　芝蘭

小枝丈

[illegible]　　少枝

○

[illegible]白米五斗黄白一百

一[illegible]

かくなくみのうすくしかくのすきひとれ

さしろ[illegible]

えりや　豊の上[illegible]米[illegible]　小枝

[illegible]

四月廿四日　　芝蘭

小枝様

[illegible]人の菰[illegible]

恭を表して殺人いとまなしも

○

然るに約束して毎月給料を取りて武士の人に少訓民
女子人に教育を施す者の拙中をうくいは御先祖和
まり一向をもとしつゝ取人を言ひて世を下し怪しひ
廉潔も本色よりも貴ひ中は時を富と為りて浮き世に
多数富ある人は仕くくとあり一向富あるうを見るとみのを
てもあるいは殺人下に仕えるもあるを無宝の物別立
人に謝礼致すくに教生の老員をうを多数富あるを出
吹は相すくに初学のあるを教たくに教をうを貴白
まも仕る人のさし学をうを調子のけ所をいとしいはとと
やとあ遠をうを名白はとをうをつきとをうをつくてまよの

風人をとれは仕をれふをとをしたくに教をすをとくを学
教仕をとをうはをちひをを教を入るのひををれ
家富を同をすをしはを心付を教をあくをれは二あれ
教をとをれは人をあの学をれをとをて指併を少柄の利相
めをを学の人を仕ををしきをすを人武林を中を
ををのをかの家宅放白鵬の詩を所をを武州をを所浮
加賀の家中の人をを学を白を学をは学を学をきを
ををひをや浮を学をする 梅の元

二月十五日 芝蓮院

一芝校

又武士教生をするものをと主人をを面を学を柳を絵
をを学をををを

[illegible]

○

附合十七体お式に記をて初めを[illegible]

[illegible]

[illegible]

小枝撰

○

為月を慰ぶ事ありて紙ていかゝ一ツハまさいつと定め
かゝるに百為月をとゝなりてとゝ人を慰ぶ
いとし

稗の穂れてるあ一るけしき紙

遠白
撰　とゝとて吹ゝ撰ぶこゝ
めるこれよりとゝとゝ者ゝ者ゝ者目加生撰人
撰撰

男ふゝ人のむ新や秋の月

八月四日　とゝ紙

手撰撰

○

陸士秋の紙宗とゝ紙ゝ一ハ芽元大意氏
新ゝ芽ゝ芽ゝ芽撰書ゝ一ハ士手須白ハさゝとゝ
ゝ芽ゝ一ゝとの変化芽のゝゝゝ一入ゝ芽ゝ一ゝ芽
大大ゝ紙ゝゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ新ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
乙物芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽
芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽ゝ芽

[illegible]

七月十七日　　[illegible]

牧[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

卯月廿一日　　[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

如月ゟ　　そを成

山筋文
五川文

ゑれ人のことをきいまうものを

○

一ゑぞ原庶くの白物をて扇引をくるゑれ物を立てゝ
紙をは為ることをまるは角八服くハ草くゝ作紙遣長放
伐て式俵袴き人の投投ゝ人くゝ手ゝ上ゝゝ人の裏白ゑ
きめるゝゝ手をゝ出てゝゝハ手海の海ゝ白投敷の服くをは
角ハゝ為ゝゝ為くゝ分ゝ結ゝゝ白ゝゝ白人ゝゝ不来
ゝゝゝゝ山中白ゝゝゝ三ゝ物ゝゝゝ長ゝくゝ手ゝに分ゝゝゝ
山ゝゝ多くゝ二ゝ物ゝ作ゝ成ゝゝ見ゝし米三文ゝ手ゝ八草

おゝゝをゝゝゝゝゝゝゝ山ゝ中四ゝゝくゝゝゝ加ゝゝゝ丈草
ゝ紙ゝゝゝ紙ゝくゝ間ゝゝゝゝゝゝゝ紙ゝ分ゝゝゝ二四白
ゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

十月十三日　[illegible]

小枝稜

○

[illegible]

一[illegible]　一升

一[illegible]豆　一升

一[illegible]　大合

[illegible]

[illegible]

十八日　[illegible]

[illegible]八郎

○

山吹月桂雲門餅

屋敷松　越州　茶

御法ハ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

中ごろ　浪化様　桃青

○

[illegible]

世二　[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

桃青

[illegible]

又　[illegible]

○

[illegible]

七　松風文　[illegible]

○

[illegible]

ものもしい

一番番頭の名前を書いた更紙八枚半ばかりを考出し

[illegible]入れ場山形の用の事

十七日　　そそ紙

晩の紙

○

傘の張替をいたす事

おやすみ[illegible]の張替をいたす

七日　　そそ紙

三頭紙

○

新麦一升四合三勺　油の中[illegible]九合五勺　[illegible]

[illegible]一斗小麦粉二百[illegible]

[illegible]油ふくく[illegible]

○

松屋[illegible]

[illegible]

[illegible]

松風紙　　そそ紙

おそそ紙

○

口上　[illegible]

○

口上

[illegible]

三人[illegible]

書事先生　　芭蕉庵

○

[illegible]

支考文

○

[illegible]

世化[illegible]

[illegible]

○

其角雅生

梅の盛りなれば此一句ゆゑなれし
一事等のもてなしに対し俳諧の道ふかく彩色の色を
やるべきなり
二月十三日　武陵芭蕉
梅丸老人

○

ほとときすの歌横はしるやあの上
一説に江戸横はしるやの杜宇
水光接天白露横江の字白服多くして二の代
いろもしやし接物きるあるべき事水沿岸沿地とある所
来れるかれ鈴定のなるべきなれば白露を沿地を横
江の白又ゝ論すべき者上句は白露をいとしるべきなれども

江のなめきに水のそこなるひかるる白の白ひかり一き方
思ひ出づるの案やれとくする内に山に来る東海道氣
と詩歌のうたるものも来るべきの歌なるしもの
きすとして事止めきるべきなれば白露横江を
寄文を味合べきなり

荊口丈

○

おのれ実と一生おのれ無一世角と一句の和と赤武
功名ゆゑ山にてなる詩歌の一合にて一生一代案文字形
此位合をおかい本者ゆゑ入べし

六月十日

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

十八日　　桃李

め形丈

○

[illegible]

[illegible]

二日　　さを式

かふーや義伝紙

○

保生体丸之作

むの名れうとしてして写　在

お将尼の妻お鈴情ろ

素学ろ菊国ろ[illegible]

菊のもつや[illegible]きれうら当の形

世波ろもの写ろ

金屏の松お古ろと[illegible]ろ

程度く代尺ろ[illegible]

[illegible]

十月[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

廿三日

[illegible]

秋風文

歌舞自伝

おもしろ[illegible]

花のうや古くあるべうれうう

以上

そそ紙

○

尾[illegible]

[illegible]

そそ紙

三千里尾張大根のそそ[illegible]

又

[illegible]

時候ハ[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十三日　和仏丈　枇杷

○

松風楼　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

○

[illegible]

[illegible]

二十九 廿二丁

[illegible]

二十九 廿三丁

一[illegible]

[illegible]

二[illegible]

[illegible]

家母世[illegible]

家恩[illegible]士　[illegible]

○

[illegible]

十廿二日　洞水丈

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿一ヶ　　枇杷

左橋夫

○

[illegible]

小向やり紙

○

[illegible]

二月十六日　　芝山

○

一南月十六日かの京より一南の紙を持ち来りて
申し給ひ入れ給ふ四月八日なり
耳もきくなれば
毎月八日なり
十六日
十六日

六月分

松尾

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九月十日　　枚風録

○

[illegible]

物作り　や　袋　は　うちは　月と　も

[illegible]

[illegible]

廿五日　　枚風文

○

三月十九日伊賀上野を出て三十四里の所と百三十里ハ内舟
十三里陸路四十里歩行後七十里面より十四日
流の数七ツ　流門　西河　清冷　浮　布目　布引　筆面
古塚十三　亀塚　赤塚　乙女塚　清盛石塔　忠度塚
敦盛塚　人麻塚　通峯塚　枚風村西塚
越中前司盛俊塚　河原左衛門兄弟塚　良將橋塚
能因法師塚
峠六ツ　琴引　腮峠　[illegible]峠　岩や峠　小俣峠　根尾峠
坂七ツ　鞍坂　西ノ[illegible]　ちいら坂　[illegible]坂　宇治坂　[illegible]坂

不動坂　七田　小野坂

山峰　六ツ　玉尺山　安祿嶽　高野山　石のいの峰

猪尾寺山　金剛寺山

此外橋の數川の數多〻〻西山〻〻八十ヨリ〻〻山

印月廿五日　万菊

松寿

恵七稿

○

愛宕山一覽の詩為ら所作ものを和歌おもしろかるべ

ちと念れ来れり

是年〻風流風雅し俳諧宗匠杉谷上

京角田氏〻〻〻

一き紙高起ハ差出ハ無之
一枝葉ハ再度ハ所ノ分差出ハ除枝風ニ調八華ニ差出
ケ志ヲ為ニ一日ニ差出ニ
元禄七年十月
一支考ハ代官御働ニ付切ニ申ニ付ハ私方ニ流ノ御
八則ハ差出ニ
大谷孫兵
支考ハ右ノ後ノ写ニ付ハ命御ノ通ニ差立ル
殊勝ニ
○
送物完
一三ノ月見
伊賀ニ

一 貴白書中　同所
一 埋木　宗鈴方ニ
一 新式書入
見ハ枝風ニ
一 文章反古
右ハ枝風ニ文章ニ付ハ無検ニ
大谷孫兵
○
一 羽物書中ニ貴白炭俵基ニ移入ニ公用ニ第ニ送ル
一 雑箱ノ内ニ俳諧ノ引直

一古今の序俳百人一首抜書抄見八文考くこのたをて

元祿七年十月日　　文を識す

○

俳諧を連歌の余とする事は、はるかに遠ざかる世なれども、文を人倫の教にかりて、
年を富む人の新しき俳諧ならんかと、ことの葉を上手とする者、
歌を人倫の教にかりて、はるかに遠ざかる世なれども、
はるかに遠ざかる世なれども、
はるかに遠ざかる世なれども、
はるかに遠ざかる世なれども、

十月十日　　松尾芭蕉

新撰八集と賀ら抄所

俳諧一葉集句合評之部

古學庵仰考
幻窓湖中　編
坎窩久藏　校

小太郎の歌ふしの数ふしの長く小長とすることの定まりなく中
ごろ紫のひとつとなりの花を折るとしてこれを折るとて白きを
ひろめ赤くなるとうたれたるうるはしめかさくれ
うるうるみしらぬ事はきんきんとして民俗学こいを記し
て之十番は花の歌合を紙べの古刀の式にはなるべきの
秀句を書きて紙ちらしぶれは書き人とまれひとりぶれ
見ぬ所ひとりいはあるべく合をて結びをて天をまなれば又作手は

[illegible]

寛文十二年四月廿五日 伊賀上野 松尾氏宗房

[illegible]

[illegible]

三十番俳諧合　　松尾氏宗房撰

一番

左　勝

[illegible]　三木

右

[illegible]　義仁

[illegible]

二番

左勝

紅梅は花もなく枝のいとうんこくる　氏男子

右

只今千梅をもてるものや次休さる　蛇足

左の赤いとうんこくるハ大仮こそやる花の黄金さいこ小雪
なれハれくて　右梅を又ものもの次横ハむさのにお
幸さまて仕なるとまちのきこくハ梅の黄白と次休次横の黄
白とハ仕こくハ今こそいこれ黄宮さものひ耳和
とくなのうん袋ハ赤白とまかお袋とくれハ右の花を
ぬこくなのうんぬ袋ハ又異ひこまこて左を以為勝

三番

左

なく鶯や けて物の けし白ひも　宣節

右勝

鶯こそ すむうるひすれうるハ お行ゆ　哉也

左物の枝をかきこんのとゆをを白ひこの仕ゆ　ゆこまれ
こくハけこくこそつもこくにくなれこそ左かるゆ
鶯こそすむいこくて梅の黄白ハ浅くいこくて鶯こそ
百姓の納米のくこけこくこそ左ひこくこをゆこくハ
写書

左

さうこ猫ハ幸の表ひんこまこくひや　住吉母

右勝

鶯ハ立ておこいや猫ひらこまんけ　和正

[illegible]

[illegible]

[illegible]

七番

左　持

たゞうえんかう　ゑもんハいと　猪

右

[illegible]　代参母

[illegible]　篭尼

八番

左　勝

[illegible]　柳色

右

[illegible]　梅香

[illegible]

九番

左勝　　霞節

[illegible]

右　　宗房

[illegible]

十番

左持

[illegible]

右　　政定

[illegible]

十一番

左勝

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ふまへてうれさくんなを和世故を以　義正

右の白本元の むすめとふすへきさとをとゝ御ふ

てまをを一白の主すくをきをかゝしく公家のまをを

たくれと

右の白めをんをとをふをとを紙をとをれをとをれ

かやの本をくをさひをれをう手上本元のむすめをふ

まをくをれをくをれをむひ火つをんをむのりをれハた

右のを和のりをう主をを付ふんをう

十四番

左　持　　勝元

かををやれ小番あふきの織をの絵

右

扇面和歌　扇を火て　風を火て　書を　付人

左ハ勾の弼を印を織をとをあ織きめのを主ばじき

番撰し

右の白扇をををを火てきをとを小番扇をひすをれ

をれハ扇ををのををハかををを小ををのをハかをを

ひををを稀かけををあをのハ摸陸のををくをふをめ扇

のかをあをむをの紫本織のみをを骨をを文をれハ扇角力

はかををけをく扇を物ををあ作を

十五番

左　持

すをれをは月やいよ代おををを以　貞好

右

なかれさをやわけ行月のうけ　指盛子

たいはいとのくらふを伊勢とうをれるハすしとれの
ゆみ月とかとるうしのようもつくれしろい
ゆくきいなひ踊の物そ見くやねぬさいるもかをぬ
んてうら泡えきやなきんうら変作るまとよ泡物と定め
まあくとう

十七番

左　勝

月の舟やとう宵ハどとうかとまとうしや　信孝母

右

月のをと宵よりしくなんどをつ入れ　三竿

あの白くう清の志の書宮却や寺うかとまとうあとハ法法の
ふひとうとうひうく月の夫をとあつと光明遍照十方世界

の夫やとう時白くうやとう

右

あくさくよりしくなんとをとうとうとうとうとうとうとう
あくやの白泡の鉢物と作りてくるとう泡えなれとく　北とく
踊の小番ふれハ精霊のおくてをあるの盆のおくかくれて
見のくくくくきくくひくくくくけあつて法を抹香くくく
鉢面つくく拍子　さ以左右勝

十七番

左

ちうかくく条くくうやうれと釣もうく　吉之

右　勝

むうふ釣れ見くくあくやひんこいん　常新

左伊勢おかを八月ふみうくくくよくて出番なれハうれ条

[illegible]

十八番

左　陸

[illegible]の上と大[illegible]ぐ[illegible]ゆ　稲の束　遍意

右

[illegible]の白大[illegible]　稲の束　城次

[illegible]

[illegible]

十九番

左　扇

[illegible]鼻をむ[illegible]　此男子

右

[illegible]の[illegible]　哉也

[illegible]

[illegible]

二十番

左　猪

[illegible]　小野[illegible]　政輝

右

女郎花や毛[illegible]　宗房

[illegible]

[illegible]

二十一番

左

[illegible]　鼻毛

右　鵜

[illegible]　右口

[illegible]

[illegible]

二十一番　左　勝　三木

[illegible]

右　敗　[illegible]

[illegible]

二十二番　左　勝　餘淋

[illegible]

右　敗　[illegible]

[illegible]

二十四番　餘淋

左　持

海の磯やすらとそちりはまの色

右

かゝ阿の代のちんどう見をもん　三草

海の磯ハさすがに一度さすがにさすがに見もしらぬ

弱く付れども一句ゝゝゝ

[illegible]

二十八番

左　持　　小豆持　　吉勝

炭の荷や付てうつしいらんぶる

右　　長勝

炭のうつりてやずんといやれ木ゝや

左炭をうつしてうつりけるとうつるハけるうつし、えんとう

ゆきやれく一日とくいいとうみのけはやれあはれ

あの白すんといやれきとハゆれとあのとくはんとゆ

[illegible]

左　持

掃除して新雪あきれや炭はうつる　不屋

右

炭焼やみのうち先祖ハよくきつりさ　一入

五炭とうつりてんとうとうとうて掃除しるハすとあるる

宗ゆうとれとう茶苑ゆる茶白し

ゆハゆ和さまとくゆうれ物のう先祖ハよく初とうとゆ

炭をうつるとれううう炭をかうゆて遊　入仙

先祖をうくさうれんゆうとれうくゆうくゆ炭の屋うん

の和ゆうゆうとて様とうとハをううきゆゆゆゆ

ひうんゆうゆうゆうん

三十番

左　勝

[illegible]の[illegible]はいきらびきやどんの神こそ　四男子

右

[illegible]やそこうみの出る神こそ神る　一友

[illegible]の[illegible]の白[illegible]人他の[illegible]いきらび社
[illegible]の社のおやぢきよと沙[illegible]人沙[illegible]社の社
[illegible]
[illegible]
[illegible]

元宴八歳次
庚申仲秋日　　[illegible]

白金白合

第一書

左　[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

第二書

左勝　　農夫

吉野の水やうつく敷書の手とはしく

右　　野人

引うえの菊をたづねて吉野の宿

岩ねをとらし昔のこい水まくとをゆむ清の文義

之うつるを懐素の自叙帖のものとまうすとも古

比白編すべきなり

第三ゝ

左　拾　　農夫

梅の梅概ゆゑ清きうつし

右　　野人

[illegible]梅ゆゑ梅梅清きうつし

[illegible]

第五

左 持　　農夫

地利牡人[illegible]や花あるて

右　　歌人

[illegible]

地利[illegible]牡人[illegible]又[illegible]

[illegible]

[illegible]

第六

左　　農夫

[illegible]

右 勝　　歌人

[illegible]

[illegible]

第七

左　　農夫

[illegible]

右 勝　　歌人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の花や海[illegible]

右 秋　　北人

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左勝　　宗文

神のおもと相二宮ハおめものし

右　　雅人

[illegible]

相二宮の神のおかハ夫人の心ハ状[illegible]

[illegible]

[illegible]

第十六
左勝　　宗文

分限者年来くハ秋の夕をと於

右　　北人

秋の心法師ハ仏は南無こそ

えたの白張法師の宿光仏そうんとむさとこそ

やあ白張こそ仏て大箱山を地ゆ和尚さまして

問ア屋ア仏そと世をを家すそのあれ一弥をえそ仏

みそ神のとくく如来をそと仏て故の白閑に入

第十七

左　　宗文

祝の町書れる光はそ於れく

右勝　　北人

芋を植そ面を光はれそ

左の白里の祝そいそんハ吉そそ祝の町と言書えて春

ハ祝そそそそ書祝そそいひ八行仏の中と仏有て

いそそ仏とそそそ中又芋の望千面を光はんハ中とそ冷

くそひき祝も慈心そそこれ高叙異ら雨の影を樽

春ら和月貴色並と仏と言をと仏ら右勝そる

第十八

左勝　　宗文

白ア の 要 蕪 蔔 かそそ 廿 春 そる

右　　北人

紀 祝 行 山 そ み そん 祝 と 神 れ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

火性のゆえに和名を寸さきと称す
口切の一句をつうず絵をもつて茶会を洗ふ喪茶法
飯の業ハいろ〳〵ゆゑ助ゆゑ又火性のゆえに和の字ハ列子曰
陽氣壮則妻淫大火燔燒又精神森則妻疑ゆゑ是
を以これを火を焼きの字ゆえ和を言うんとすれ
ばなり

第二十二

左 持

をゆくしろ 狩 は 掛 筆 みてきし

右 雲丈

をきてとくハこうれと蘇鉄の女郎 地人

ちの白ハ物のしきをもて風情をもつて風情なり遠山

なのけ大をもつて成を光狩をく帰く雲の物のみを
年一人人なをもてゆれば山里のようにさすらてたひ会
きをうなと又主年のそをの孫の孫ゆきうなるをく
をとのけををひいろかく白し

第二十三

左 勝

汁八ゆをを松ほのに孫をいをんを 雲丈

右

鮪をうをうに鮪をうに をと鮪 地人

金沢のゆをいをのしいをれをの美ををゆみをあけて
快松ほのかをんをををう雪ハ鮪をハふぶ古風ハ能を
ををしをに孫をしをに又友の敏茶ををゆてをれ

第二十四

左　狂

乞山家く称味噌

家内のめのみそ汁を作りて納豆汁く

右

農夫

家貧家しみを拭

貧人

紫蘇の葉の木くし丈ひれく枯くなる葉の林

から蛙めのみそ壺入く乾坤を表れる所土壺

貧用法と家ふ家くし水の白炭家して朱椀を

つの代を長をふをくまもしてもを長ほをとしく

第二十五

左

町邦乎店家おをつけをつくし

右　狂

農夫

ふうくく事の長を手つくく安さ激指の

店家のうけを買ひを一白をくしふくを

ひをれやをとに見を新美すし

野人

棚く齋主桃青漫探毫判

鶯の谷より木はさそらに咲く鶯そなみちをゆくそなつと
いくらも春の音こと四月今日雪の降りしひとり
其味の深くあるそれをあるす

枝風子

雪屋と句合

第一番

左 勝

雪ふりて子八百屋の行て茅とし

右

そ引そ小松ゝ系北そそあるて

たの茅子八百屋の行て梅そゆゝそひ雪ふる茅子卯月
ゆゝふる四月そそそ助の系北そゝ茅子すゝゝて子
日の松そ引子ゝゝめそゝく付ゝゝ先八百屋の子の
かゝそゝゝゝゝゝ付ゝ仍以左勝

第二番

左

[illegible]

右 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

[illegible]

第六

左 [illegible]

右 [illegible]

[illegible]

第七

左

[illegible]

右 [illegible]

[illegible]

第七

左

[illegible]

右 勝

[illegible] 山 松 本 [illegible]

[illegible]

[illegible]

[

左持

きりの葉の切きてはめり命うれ

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

右

天皇の御代にむらさき殿にはべりしころ
殿ゐのぼりて日向の国に流されたりしかの
遍照が侍りしを流されて後に京にのぼりてあるじとおぼし又
有の美仲かなりしひとりをもうしなひ給ひ物を放ち
給へるに殿ゐのぼりたりしと聞給ひて遍照の法師をぞ
第十三
左勝
ひとしなみ第木はかろくしと思て云
右
新うらみや毛虫かりたりしれの海
五軍本のかろくしてやすしなの白かりたりしれ

此ことは水ゐのいろを毛虫の新をたちんと無ものをそ
殿ゐの趣向をもてあそぶこころ殿ゐ完侍ハ例耳と
やはらきこれ海ゐの方ゐやすしなれ
第十四
左
古ことはやはらとも人ゐ後大相
右勝
新新の文ゐ殿ゐの写れとこころふれ
方ゐ殿ゐ侍ゐ者ゐけゐとも人ゐとよめる古ゐ殿ゐ
ゐあるとゐ殿ゐ三ゐのゐとも松葉ゐ手豆類一日ゐ殿ゐ
うゐの殿ゐ無ゐ
第十五

左

里芋の長ふり畠中に出て生ぬ

右 勝

蓮の山ちらちらとして垣陰に自然生

里芋無そて実外し赤の山の蓮自然蓮顔生の実あり

ちらちらとして実や但自然石自然不赤の彩ちらちらの

すしきらを上五文字まかりて一句とつくる作者

右勝

第十四

左 勝

柔信自然と柳子の新れてちらちら

右

乳酒の信尺や柳子の責ちら受ル

左の五文字孔雀ちらちら柳子の勝ちと乳酒

なのお大根を食しる苦と成新ちらしやの白彼戒の信を

いりしめて赤柳子のせめをうけ食慾の苦みの柳味

味の答うけて出やと柳子ちらく味柔良苦の信ちら

珠猪子おわく作れ

第十七

左 勝

暮山の雨 松茸のすとくひとり

右

岩ちらの木ちらけは耳子出し

きちらくちらは苦山の白子ぬれく松茸のすとくちら

けきちらの子の子云赤除赤の白と一作ちらの子

第十八

左　勝

ふかしてを密柑と金柑の名を問

右

水又栗こを清しといとんとされハ

柿を密柑金柑の論ハ世の中に化をそなの中に密をふく

めり数日の中の変化に旬において茶国心ゆるんむ孤味を

しを復栗の旬ハ栗まるを水を清しとおこ心よく言葉

仕れども心ゆるして言葉ならく新まり方をまるなやに

ちの白を以新ひるを称と定をあ

第十九

左

物語ハ千歳のむすひとをそ

右　勝

ゑしてあやの子を瓜のひとつ

ひさこもの物語千歳の形ひとをそ

をふるれされをそ千歳むくとい以財ハ白の雪をを秋

の白を合をんといをそれハ又うを松をる松の神をを瓜

うをおれをいひをねをおこけてゆををれををを

尺を新しく越を

第二十

左　持

右

山ちの月 酉至子四ようつや四つ

右の白張夫杉の四ように見ゆるを以笠屋を[illegible]

[illegible]の侍[illegible]を[illegible]白張の[illegible]先さい[illegible]きまにあを[illegible]

さ[illegible]山[illegible]なし[illegible]の白い酉至子四ようお山[illegible]

の見[illegible]笠屋を[illegible]の見[illegible]白おも[illegible]

才二十一〻

左 勝

本[illegible]

右

[illegible]や[illegible]子 す房八理 本

[illegible]川ら行潟の[illegible]風の[illegible]

[illegible]笠屋の

[illegible]

才二十二〻

左 勝

[illegible]や松浦の[illegible]

右

[illegible]

[illegible]

[illegible]

左脇

熟ましふものゝ性をもゝ知るべし

右

水筋のごとしがんこんのかんハきゝとよろし

麩ハ性ヲ註レカンテンハ文字ヲトク増補献立抄ニ曰ク麩ハ風味ノ切以酒煮以油煎則味愈厚シトヤリ此方賞翫ゝ

第二十四し

左　お

大根生ゝ近ゝ

右

竜の子茶男徴性ゝ

竜の中此国国ニ住ゝ

第二十五し

左　お

竜の竹子今ハ塩しゝ

右

鰹身此ゝ和ゝ

胃の竜宗竜の中の沓河ハ

鰹月の青物四河

竜の中此国国ニ住ゝ

第二十六

左　お

竜の竹子今ハ塩しゝ

右

鰹身此ゝ和ゝ

胃の竜宗竜の中の沓河ハ

鰹月の青物四河

竜の中此国国ニ住ゝ

第二十七

左　お

竜の竹子今ハ塩しゝ

右

鰹身此ゝ和ゝ

胃の竜宗竜の中の沓河ハ

鰹月の青物四河

[illegible]

かとの瓜

于時延宝八庚申季秋日　　美桃園

隆の原

判者四人

春　素堂
夏　調和
秋　湖春
冬　桃青

四季之句合

樹者

不卜
才九
其角

一番

左　若葉

若葉のつめ木ぬきすてゆくすゑ　雪の山　風水

右

若葉なるとも雪士の清くやう　清ひとり　松濤

たのもしき金屋源四郎やをとこ　又山をゆくすゑ不二の後の一日のうけをゆくすゑ　雪の山　又山をゆくすゑ

二番

左　勝

親とるは雲和尚をかうふ　野ゑ　溪石

右

三番

左　扇　扇奥

右　文鎮

四番

左　脇　松風

右　松風

五番

左　持　細代　心水

右

不角

六番

左　勝　石京

右　負　細梅

七番

左　勝　鴨

右　負　蓮史

八番

左　勝　[illegible]

右　負　[illegible]

[illegible]

八番

左　水柱

[illegible]

右　勝

門開き　[illegible]

[illegible]

九番

左　持　[illegible]

[illegible]

右

[illegible]

十番

左　勝　祢宋

[illegible]

右

[illegible]

昭和學會
昭和學會
昭和學會
30.3.5.
27